

同窓会 「先輩の力、活用を」 新会員311人迎え入会式

新会員311人を迎えて、平成23年度の秋田高校同窓会入会式が2月29日、本校体育館で伊藤奈都子さん（平8卒）の司会のもと行われた。

豊口祐一同窓会長（昭34卒）が「先輩は国内外で多数

講演要旨

皆さま、こんにちは。この度は晴れて同窓会へのご入会おめでとうございます。私は平成8年度卒業生の笹尾千草と申します。秋田市の大町でコラボラトリーというアートスペースを開業して間もなく7年になります。ギャラリーの運営、芸術文化に関する行事の企画運営、デザイン業務など表現活動にまつわるあらゆることがわたしの仕事です。

「アートに関わる仕事がしたい」と夢を思い描いたのは17歳の頃。大学進学にむけて、将来どんな職業につきたいのか初めて真剣に考えました。気が多い私は夢を一つに絞り込めずにはいりましたが、当時愛読していた雑誌『Olive

を達成できる」と歓迎の言葉を述べた。

アートスペース「コラボラトリー」代表の笹尾千草さん（平8卒）が、新入会員を激励、続いて、三浦廣巳副会長（昭46卒）から新入会員に記念品が贈られた。

これを受けて柴田花梨さんが「これからの秋田、日本を元気にしていくためには、若い世代のパワーが必要である

トに関わって生きていける仕事があるなんて！

現在、わたしは秋田をフィールドにしてさまざまなアーティストと出会い、交流を重ねています。そして、その創造力と集中力が最もこの土地で活かされる場や仕事をコーディネートすることが生業と

アートに関わり生きる

笹 尾 千 草
(平成8年卒)



生み出す仕事です」。

わたしはその言葉にハートを貫かれてしまいました。美術作家でもなく、美術館の学芸員でもなく、こうしてア

なりました。夢に描いたイメージは、都会にハイセンスなおフィスをかまえ、流行のファッションに身をつつみ、最先端のアートを扱っている姿でしたが、それと今の自分の姿はある意味かけ離れていました。「アートに関わる仕事がしたい」。描いた夢と貫かれたハートはそのままに、わたしの価値観は時代とともに変

と感じている。秋田高校で3年間学んだことは、さまざまな方面で生かすことができると思う。しかし、われわれは経験が浅く、未熟である。人生の先輩である同窓生の指導をいただきながら一人前になっていきたい」と述べた。

最後に全員で校友会歌を斉唱、式を終えた。

化しました。夢をかなえる舞台は「都会」から「秋田」に。そして、取り扱うのは「流行」や「奇抜さ」よりも「日常」や「普通」に。今はそこに豊かさがあると信じていて、都会に憧れた高校時代のわたしはどこへやらといった感じです。

友人のつくった野菜を友人のつくった器で食し、友人のつくった洋服をまとい、あくセサリーを身に付け、信頼関係の中で知恵と創造力を働かせて循環している暮らし。これが、実現したかった新しい豊かさだと、確信しています。

自分のモノサシをもつことで、私は自信を取り戻し、一生かけて取り組むべき「ワタシのハタラク」というものに気がつけたのだと思っています。

す。こうして高校時代の夢は生き方の指針となって、職業がかわっても、住む場所がかわっても、災害があったり、不況だったり、どんなに環境が変化しても支えてくれている。夢を思い描くことは、職業を考えることではなく、生き方を考えるということだったのだなあと、今更ながらに思うのです。

今日から皆さんは秋田高校同窓会へ入会されます。秋田高校には脈々と受け継がれた名門としての歴史があります。しかし、その名前によりかかっているのではなく、ぜひ、地域で、そして世界で活躍する多様な先輩たち、そして同級生とのネットワークを大切に育て、その中で個として自分はどういうはたらきをして、どう生きていくのか？ということを考えてみてください。

そうすれば必ずみなさんの未来が可能性に満ちたものになると信じています。今日はこのようなスピーチの席にお招きいただきありがとうございます。同窓会の諸先輩方、同窓生に感謝申し上げます。また、寒いなかご清聴くださった新入会員の皆さま、ありがとうございます。